

地域と行政の橋渡し役 行政協力員大会

10月30日、大館市行政協力員大会が開催され、記念講演や永年勤続者の表彰などが行われました。そこで今回永年勤続表彰された行政協力員のかたがたをご紹介します。

平成7年度 大館市行政協力員大会



行政協力員は、市が、各種書類の配布・取りまとめや、市民から市政への要望の取り次ぎなどをお願いしているかたがたで、十月三十日現在、二百八十二人に委嘱しています。中には二十年、三十年という長い間、行政と市民を結ぶ架け橋として活躍していただいているかたもいます。

- 今年永年勤続表彰された行政協力員は次のとおりです。今後とも行政協力員の仕事によりしくご協力ください。
- 永年勤続表彰者**
- 30年勤続 (3人)
 - ・関 喜一さん (沢山)
 - ・佐藤秀明さん (鳴滝)
 - ・佐藤清助さん (出川)
 - 20年勤続 (2人)
 - ・伊藤 進さん (高館下)
 - ・虻川良逸さん (山田渡)
 - 10年勤続 (5人)
 - ・畠山章さん (御成町2丁目)
 - ・柳沢トキ子さん (釈迦内中台)
 - ・因幡正一さん (高村)
 - ・白川治郎さん (神山)
 - ・若狭一雄さん (中羽立)

市民読書感想文コンクール

審査結果

第二十六回市民読書感想文コンクールへのご応募ありがとうございます。今回のコンクールには、一般の部・学生の部合わせて三十二編の作品が寄せられ、審査の結果、次の六作品が優秀作に決まりました。

一般の部

- ・黄落を読んで
樋口 久美子さん(東台1区)

学生の部

- ・「白夜を旅する人々」を読んで
佐々木 典子さん (田代町2区)
- ・「黄落」を読み終えて今
畠山 智子さん(旭ヶ丘)
- ・エイズに立ち向かう
一関 恵さん (商業高校2年生)
- ・サイレント・コーリング
高橋 弥生さん (鳳鳴高校1年生)
- ・「人間失格」を読んで
長崎 純子さん (商業高校3年生)

市長リポート

No. 102



老人福祉総合エリアが

果たす役割とは

ここ数年、独居老人対策が社会的な問題となってきました。独居老人の数が日増しに増えていることもあり、当市でも真剣に取り組まなければならない課題の一つに数えられます。今年度から着手した秋田県北部老人福祉総合エリアの整備事業。これは県北全体を対象にしているとは言っても、今まで大館でやりたくてもできなかった様々な福祉事業が、これを契機に実現できるようになるわけです。

例としてケア付き住宅等が挙げられます。ケア付き住宅というのは、独居老人や高齢者夫婦が、周辺の保健施設や介護体制を背景としてゆとりをもって生活できるようにした住居のことです。今まで皆さんはケア付き住宅といったものは経験したことがないと思うのですが、エリアができることによってそのような積極的な試みが導入されることになるのです。

ケア付き住宅は、県北全体にとりあえず一カ所しかできないものではないですが、そういう初めてのものをそこで実現してみせることによって、大館以外の市町村への大変良い見本(シヨウインドルー効果)になるわけです。エリアというものは、それで福祉の需要すべてを賄えるものではないのですが、逆に言えば、各市町村が福祉施策に取り組み際の突破口になるものなのです。

また、高齢者の皆さんが集まって住むということによって、お互いにいたわり、助け合うといった連帯意識が生まれ、そこに一つの「地域社会」が成立することも、エリアの効果として期待されるものです。そのような中身(ソフト面)についての理解も、行政の役割であると考えていますので、今後ますます積極的に取り組んでいきたいと思えます。

小畑 元